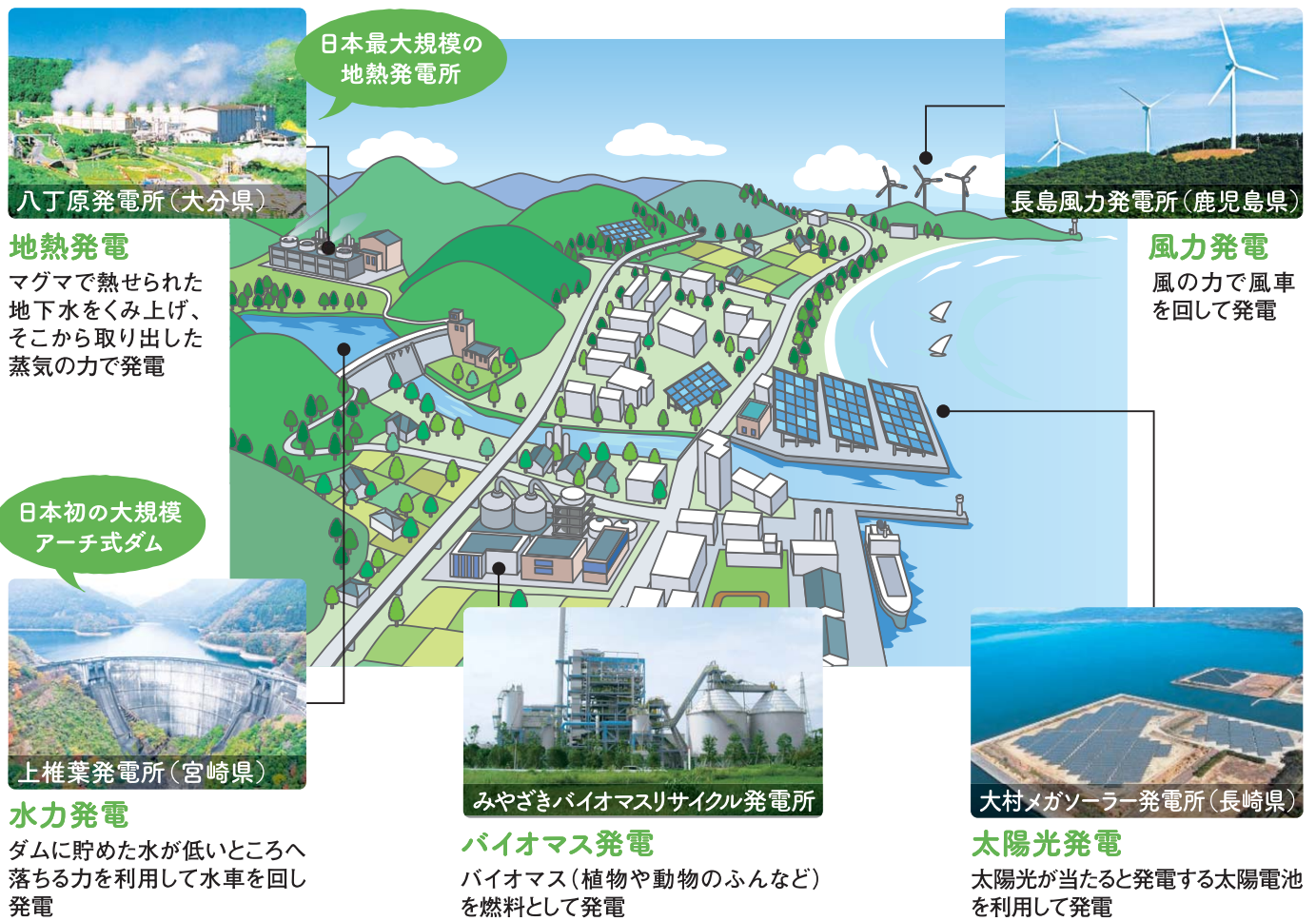




環境にやさしい  
企業活動

## 地球環境の保全や地域環境との共生 に向けた取組みを推進します

地球温暖化防止に貢献するため、  
**再生可能エネルギーを積極的に開発・導入**  
しています。



### 再生可能エネルギーの開発目標

国内外で蓄積した技術・ノウハウを  
活かし、地熱や水力を中心に、洋上風力に  
ついても技術開発の進展等を踏まえ  
ながら、開発していきます。

		現状(2017年3月末)		目標(2030年)
<b>180.9万kW</b>	内 訳	水 力	128.4万kW	<b>400万kW</b>
		地 熱	31.9万kW	
		風 力	11.8万kW	
		太陽光	4.7万kW	
		バイオマス	4.1万kW	

?

この他にどのような取組みを行っているの？

詳しくはウラ面へ

## 世界最大規模の地熱発電所の初号機が 営業運転を開始しました

当社が事業参画する世界最大規模の地熱発電所(インドネシア)の初号機が、2017年3月に営業運転を開始。

国内で培った地熱発電技術を活かし、地球温暖化防止及び現地の電力安定供給に貢献していきます。



サルラ地熱発電所初号機(インドネシア スマトラ島 サルラ地区)



噴気試験

[プロジェクトの概要(当社25%出資)]

事業内容	地熱資源開発から発電までの一貫開発 発電電力はインドネシア国有電力会社に30年間売電
出力	32万kW*(3系列)
運転開始	初号機：2017年3月、第2号機：2017年10月 第3号機：2018年予定

※国内最大である当社八丁原発電所の約3倍の規模

## 原子力発電の活用により CO<sub>2</sub>排出量を抑制しています

2016年度は、川内原子力発電所の年間を通じた安定運転により、火力発電の稼働率が低下しました。これによるCO<sub>2</sub>排出抑制量は、運転を再開した2015年度(1号機:9月、2号機:11月)に比べ、約220万トン程度\*と試算しており、2015年度の総排出量の約5%にあたります。

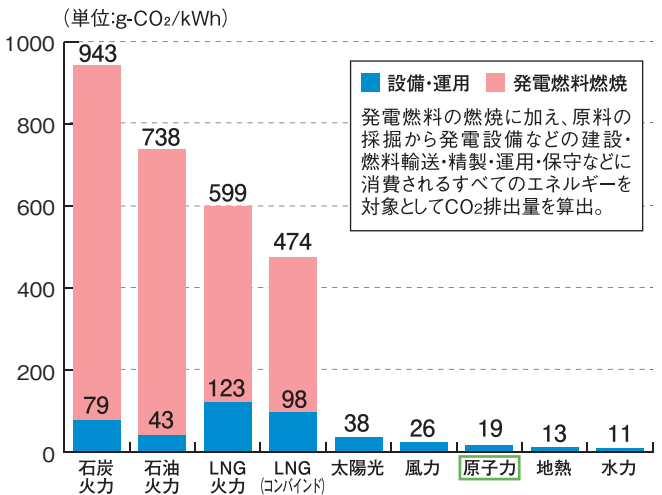
原子力発電は、電力の安定供給や発電コストの低減に加え、CO<sub>2</sub>排出抑制面でも非常に優れた電源であり、今後も、安全確保を大前提に活用していきます。

※2016年度の当社販売電力量あたりCO<sub>2</sub>排出量(調整後)を用いて試算



川内原子力発電所

[日本の電源別のCO<sub>2</sub>排出量]



出典:電力中央研究所報告書をもとに作成

## 環境コミュニケーション大賞 優秀賞を受賞(九州林産)

グループ会社の九州林産(株)が発行した「環境活動レポート2016」が、第20回環境コミュニケーション大賞\*の環境活動レポート部門で大賞に次ぐ優秀賞を受賞。

同社の事業基盤となる生物多様性の先進的な取組みや、環境会計等を活用した定量評価などについて、「読みやすさを意識した完成度の高いレポートである」との評価を受けました。また、九電みらい財団と「くじゅう九電の森」で行っている環境教育についても、「大きな波及効果を生む取組みとして高く評価できる」との講評を受けました。

※主催：環境省、一般財団法人地球・人間環境フォーラム



「環境活動レポート」は  
こちらから ▶

